

九州大学における他学部科目履修の現状と課題

- 学生の履修データの分析から -

高等教育総合開発研究センター 岡田 佳子

1. 本稿の目的
2. 総合選択履修方式による学際的学習活動の支援
3. 各学部の特徴
4. まとめ
5. 今後の課題

1. 本稿の目的

本稿の目的は、九州大学における専攻教育科目の他学部履修の状況について学生の科目履修データから検討することにある。

わが国の大学では、学生が各学部にも所属することにより、学部単位で専門性を深めていく教育方法が一般的である。本学で2001年度から開始された21世紀プログラムは、平成15年度の文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に選定されたが、21世紀プログラムが評価されたのは、それとは逆に、このプログラムが「学部横断型」の教育体制をとっている独自性ゆえであろう。しかしながら、実際の九州大学においては学部横断的な履修は21世紀プログラム以外であっても可能である。九州大学ではカリキュラム上に総合選択履修方式を設置することにより、学部横断的な学習活動の支援体制を整えているためである。

では実際に、各学部の学生はどの程度、学際的な学習活動を行っているのだろうか。本稿では、学生の履修データを検討することによってこの問題に迫ってみたい。

2. 総合選択履修方式による学際的学習活動の支援

本学では、カリキュラム上に全学教育の一環として設定されている総合選択履修方式を用いれば、各学部においても10～24単位の範囲で、全学教育科目及び他学部の専攻教育科目を履修することができる。九州大学における「全学教育の目標」の中には「総合選択履修方式の目標」について次の様に記述されている¹。

学問研究の急速な発展やその社会利用の多様な展開に対応して、学習において学生の個性ある多面的な能力を柔軟に発揮させるために「総合選択履修方式」の単位枠を設ける。これにより、

¹ 平成16年度九州大学全学教育科目履修要項より。

学生は、低年次から高年次にわたって、全ての全学教育科目と他学部・学科で開講される専攻教育科目の中から、希望する科目を選択して履修することが可能となり、修得した単位は卒業単位として認定される。このため、この制度の実効が上がるよう履修指導に努める。

また、「全学教育の目的と構成」において、総合選択履修方式は「学生がより幅広く深い教養を培うことができる教育を実現する」ためのものとして位置づけられている²。

これらに示されるように、総合選択履修方式設置の目的は、全学教育科目及び各学部の専攻教育科目を全学的にアクセス可能な状態を作ることによって、各学生が自らの教養を個性的に幅広く深めることのできる体制を整えることにある。また、これらの文面から九州大学において「幅広く深い教養」を達成する構成要素としては、全学教育科目と各学部の専攻教育科目とが設定されていることがわかる。

ここで学際的な学習という点からすれば、注目すべきなのは、学生が自らの教養を身につけるうえで、各学部の専攻教育科目、中でも所属学部以外の専攻教育科目を実際にどの程度履修しているのか、という点である。全学教育科目は本来的に教養を深めることを目的として構成されており、また、九州大学入学生が共通に学ぶものであることから、学生にとっても比較的アクセスがしやすい。一方、他学部の専攻教育科目は、各学部の専門的な学問体系に基づいて構成されている。そのため、他学部の学生にとっては、教育情報の取得や、カリキュラム面での理解において困難性を抱えることが予想されるためである。では実際に、九州大学の学生は他学部の科目をどの程度履修しているのだろうか。次節では、学生の履修データから他学部履修の現状を検討していく。

3．各学部の特徴

本節では、学部学生が他学部履修をどのように行っているのか、学生の履修データから検討し、各学部の特徴について述べていきたい。用いるデータは、医・歯学部を除く8学部における平成12年度入学学生の履修データである。

(1) 全体的傾向～教職科目の取得志向～

図1は、平成12年度入学生を対象とし、他学部の専攻教育科目を履修した学生数の割合を学部ごとに示したものである。全体的に、他学部履修という点ではやはり理系学部の履修率の低さが目立つ。特に薬学部では他学部履修率は0%、また、工学部でも0～3%台という状態である。もともと理系学部では、文系学部 비해、総合選択履修科目の設定単位数が少ない(文系学部：平均21.6科目/理系学部：平均10.0科目)。

しかし、理系学部の中でも理学部では全体の半数以上が他学部履修を行っている。また、文系学部の中でも法学部のように、他学部履修率が低い学部もある。全般的な傾向としてみた場合、各学部において他学部履修の割合を左右する要因となっているのは、所属学生が教職資格の取得を目指すか否かという点であった。

² 平成16年度九州大学全学教育科目履修要項より。

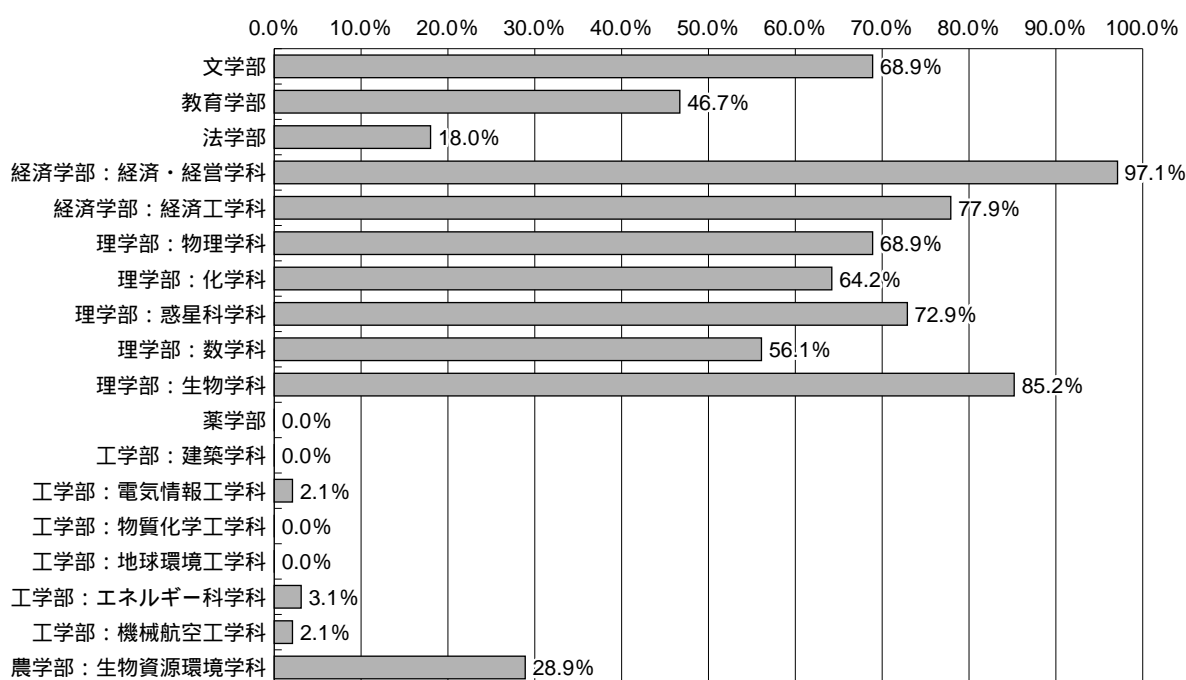


図1 他学部専攻科目履修率（平成12年度入学生）

表1 総合選択履修方式の設定単位数（平成12年度）

学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部		文系平均
学科	人文学科			経済・経営学科	経済工学科	
設定単位数	24	24	24	20	16	21.6
学部	理学部	薬学部	工学部	農学部	理系平均	
学科	全学科		全学科			
設定単位数	10	10	10	10	10	

文学部を例にとると、教職資格取得に必要な科目を履修している「教職取得群」と、履修していない「非取得群」に分けた場合、他学部で履修した科目数の平均は「教職取得群」が21.5科目、「非取得群」では3.1科目となった。このように、教職資格の取得を目指す学生が他学部の専攻教育科目を履修するという傾向は、各学部で共通のものである。

また、もう一つの特徴としては、学部で扱われる教育内容が学際的範囲に広がっている場合、内容的に関連する他学部の科目を履修するケースが多く見られる。例えば、法学部国際ビジネス法コースや、経済学部経済工学科では、教職関連科目を履修しない場合でも、他学部履修が活発に行われている。「国際」的な内容を扱うために地域的な内容に関する他学部の授業を学んだり、「経済工学」という新興の専門分野に関連した他学部科目の履修が行われている。

では次に、各学部における他学部履修の特徴について述べていきたい。

(2)文学部

文学部において、平成12年度入学者のうち他学部の専攻教育科目を履修したのは全体の68.9%

(119名中82名)である。また、一人あたりの平均履修単位数は18.5である。文学部全体での他学部履修傾向を把握するために、全学生が履修した単位数の合計を学部ごとに示したものが表2である。これを見ると、文学部における他学部履修は文系学部のみであり、中でも教育学部での教職資格取得の関連科目の履修が全体の94.5%となっている。他学部履修者82名のうち、約9割(73名)が教職科目を取得していることから、文学部においては、教職資格の取得を目指す学生が教育学部を中心とした他学部履修を行っていることがわかる。また、教職以外では、人間科学コース心理学部門の学生が教育学部における教育心理学を履修していたり、人間科学コース社会学・地域福祉社会学部門の学生が教育学部の教育社会学や法学部の地域研究などを学ぶケースなど、同一分野の内容を学部横断的に履修する事例がいくつかみられた。

表2 文学部における他学部専攻教育科目の履修単位数(全学生の合計数)³⁾

	総単位数	割合
教育学部教職	1392	91.6%
法学部教科関連	38	2.5%
経済学部教科関連	4	0.3%
教育学部非教職	62	4.1%
法学部非教科	22	1.4%
経済学部非教科	2	0.1%
他学部履修：計	1520	100%

(3)教育学部

教育学部では、平成12年度入学者のうち他学部の専攻教育科目を履修したのは全体の46.7%(45名中21名)、また、一人あたりの平均履修単位数は8.9である。表3に、学生が履修した学部毎の単位数を示す。教科に関連する科目の割合合計が90.4%となっている。文学部同様、他学部履修は文系学部のみ限定され、かつ教職科目取得を目指した履修が中心であることがわかる。

また、それ以外では文学部の心理学関連の科目が履修されているケースがいくつか見られた。教育学部では教育心理学コースを設けているため、文学部で開講されている心理学にも関心を持つ学生が履修している。これは、心理学の専門性を深めるための他学部履修といえる。

³⁾ ここでの「総単位数」は、学部学生全員の修得単位数を合計したものである。また、表中の「教職」は教職科目を、「教科関連」は教職資格取得に必要な、教科に関連した科目群を指し、「非教科」「非教職」は教科もしくは教職に関係しない科目群を指す。「割合」は、学部の全学生が他学部において履修した単位数の合計を100%とした。(表2～10共通)

表3 教育学部における他学部専攻教育科目の履修単位数（全学生の合計数）

	総単位数	割合
文学部教科関連	94	50.0%
法学部教科関連	56	29.8%
経済学部教科関連	20	10.6%
文学部心理学関連	6	3.2%
その他	12	6.4%
他学部総単位	188	100.0%

(4)法学部

平成12年度入学者のうち他学部の専攻教育科目を履修したのは全体の18.0%（233名中42名）、また、一人あたりの平均履修単位数は5.6であり、文系の他学部と比べ、他学部履修の割合が最も低い。次に、全学生の他学部履修の単位数総計を表4に示す。法学部における他学部履修は教職関連科目の割合が3割未満で、文学部や教育学部と異なり教職科目の取得が中心とはいえないことがわかる。次に、コースごとでの他学部履修について表5に示した。学生数が学部全体の1割程度（233名中24名）である国際ビジネス法コースにおける他学部履修が法学部全体の半数を占めている。この国際ビジネス法コースの学生は、経済学部科目のうち「世界経済」や「国際金融」、「経営労務」などといった国際ビジネスに関連のあるとみられる科目を実際に数多く履修している。一方、同じ法学部内でも他のコースでは履修率が1割程度と低く、なかでも政治コースでは他学部科目の履修率が0%となっている。このように、法学部においては他学部履修の傾向はコース間での差異が激しいという特徴がみられる。

表4 法学部における他学部専攻教育科目の履修単位数（全学生の合計数）

	総単位数	割合
経済学部	132	55.9%
文学部	28	11.9%
教育学部	10	4.2%
文学部教科関連	22	9.3%
教育学部教職	44	18.6%
他学部総単位	236	100.0%

表5 法学部：コース毎の他学部履修状況

コース名	人数	他学部履修者数	履修率	全学生の他学部履修総単位数	他学部履修の総単位数に占める割合
法律コース	96	8	8.3%	58単位	24.6%
法政策コース	100	10	10.0%	56単位	23.7%
国際ビジネス法コース	24	24	100.0%	122単位	51.7%
政治コース	13	0	0.0%	0単位	0%
計	233	42		236単位	100%

(5)経済学部

平成12年度入学生の中で他学部の専攻教育科目を履修したのは経済・経営学科で全体の97.1% (140名中136名), 一人あたりの平均履修単位数は10.6, また経済工学科では77.9% (68名中53名), 平均履修単位数は6.4である。このように, 経済学部では大半の学生が他学部の専攻教育科目を履修している。この理由としては, 経済学部では, 教科に関する科目のうち, 法学部開講と文学部開講の基礎学問的内容をもつ指定科目群を10単位まで専攻教育科目として認めているためであると考えられる⁴。

学生の履修内容を検討すると, 教育学部の履修が3.5%と極めて少なく, 教職資格取得の目的での他学部履修は少ないことがわかる。履修単位の大半は法学部についての履修であり, 学部での教育内容に関連する社会科学的な専門性を深めるための履修と見ることができる。

表6 経済学部における他学部専攻教育科目の履修単位数(全学生の合計数)

	総単位数	割合
文学部	341	19.1%
教育学部	62	3.5%
法学部	1376	77.1%
農学部	6	0.3%
総単位数	1785	100.0%

(6)理学部

平成12年度入学者のうち他学部の専攻教育科目を履修したのは全体の63.9% (244名中156名), 平均履修単位数は14.0であり, 理系学部の中でも高い履修率となっている。但し, 学部内では学科間で異なる傾向がみられる。

他学部の履修率が高いのは, 生物学科, 地球惑星科学科, 化学科, 数学科, 物理学科の順となる。この中で, 数学科・物理学科・地球惑星科学科・物理学科における他学部履修の大半は教育学部での教職科目である。特に数学科では他学部履修は全て教育学部の教職科目になっており, 数学の教員資格取得を希望する学生が全体の約半数いることをうかがわせる。一方, 生物学科では教育学部よりはむしろ農学部の科目を履修する割合が高くなり, 他学部履修が専門性を深めるために用いられていることがわかる。また, 化学科においても中心となっているのは教職科目の履修であるが, それだけではなく工学部や農学部における専門教育と関連しているとみられる科目(農学部での化学科目など)について履修する事例がみられる。

⁴ 自由選択科目として認定される他学部の専攻教育科目の例として, 次のような科目が挙げられる。文学部開講科目(例)「日本史学講義」「人文地理学講義」「心理学講義」/法学部開講科目(例)「国際政治学」「政治学入門」「法学入門」

表7 理学部における他学部専攻教育科目の履修単位数（全学生の合計数）

	物理学科	化学科	地球惑星科学科	数学科	生物学科	平均
他学部履修率	37.5%	64.2%	72.9%	56.1%	85.2%	63.9%
教育学部	96.3%	79.9%	94.4%	100.0%	23.1%	82.8%
文学部	1.8%	0%	0.4%	0.0%	0%	0.4%
経済学部	0.0%	0.5%	1.1%	0.0%	0%	0.4%
法学部	0.0%	1.0%	0	0.0%	0%	0.2%
工学部	0.0%	9.0%	0.0%	0.0%	0%	1.6%
農学部	1.8%	9.5%	4.1%	0	76.9%	14.6%
他学部総単位数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(7)薬学部

薬学部では、他学部履修を行った学生の割合は0%である。つまり、一人も他学部履修者がいないというのが実状である。総合選択履修方式についても、設定単位数10単位のうち2単位については薬学に関する入門科目の指定がなされており、2年前期において「創薬学入門」(1単位)、3年後期において「医薬品開発論入門」(1単位)の履修が求められている。このことに示されるように、薬学部のカリキュラムは専門志向性が極めて強い性質を持っていることがわかる。

(8)工学部

工学部においても他学部履修者の割合は非常に低い。平均1.3%で、6学科中2学科（建築学科、エネルギー科学科）において0%、多くてもエネルギー科学科の3.1%どまりである。

表9に示される通り、具体的な履修状況としては、教職科目が最も多い単位数となっているが、これは1人の学生が教職科目を28単位履修しているためである。それ以外では経済学部の「経営管理」(2人)、文学部「朝鮮史学講義」「中国文学講義」(1名)、人類と環境と数理(1名)などの履修例がみられた。

しかし、やはり全体としては、工学部も薬学部同様、学部内において高い専門性を学生に志向させるタイプのカリキュラムといえる。

表8 工学部における他学部科目の履修人数及び割合

	総人数	履修人数	履修割合
建築学科	54	0	0.0%
電気情報工学	142	3	2.1%
物質化学工学	138	0	0.0%
地球環境工学	130	0	0.0%
エネルギー科学	96	3	3.1%
機械航空工学	146	3	2.1%
総計	706	9	1.3%

表9 工学部における他学部専攻教育
科目の履修単位数（全学生の合
計数）

	総単位数	割合
教育学部	34	77.3%
文学部	4	9.1%
経済学部	4	9.1%
理学部	2	4.5%
総単位数	44	100.0%

(9)農学部

平成12年度入学者のうち他学部の専攻教育科目を履修したのは全体の28.9%（204名中59名）、平均履修単位数は3.9である。農学部内で多いケースとして、まず第一に、教職科目や学芸員資格のための諸科目の履修がある。もう一方で、学部の専門教育に関係の深い他学部科目の履修が行われる場合も多い。例えば生物資源生産科学コースの場合、学生の中には理学部の有機化学や微生物学などを履修するケースがみられる。また、同コースの中で農政経済学を専門とする学生は、経済学部の経済学に関する科目や、法学部の政治学に関する科目を履修している。農学部は、「農業」という営みに関する学際的な性質をもつ学問であるためか、専門分野によっては他学部の関連科目を利用した学際的な学習が比較的活発に行われているといえる。

表10 農学部における他学部専攻教育科目の
履修単位数（全学生の合計数）

	総単位数	割合
教育学部 教職	233	43.4%
教育学部	6	1.1%
文学部	10	1.9%
法学部	82	15.3%
経済学部	14	2.6%
理学部	167	31.1%
工学部	23	4.3%
薬学部	2	0.4%
総単位数	537	100.0%

4.まとめ

前節で、他学部履修の傾向について学部毎の概要を述べてきた。

分析結果から九州大学での他学部履修を大きく分けると、教職などの資格取得に関する科目履修と、所属学部での専門教育に関連のある他学部科目の履修の二つのタイプが見られる。全体として数多く見られるのがのケースであり、教育学部開講の教職科目や学芸員になるための諸科目、諸学部で開講されている教科に関する科目を履修する場合はこれにあてはまる。

また、のケースは文系・理系問わず、特定の分野にみられる。例えば文学部の心理学と教育学部の教育心理学、文学部の社会学と教育学部の教育社会学や、農学部の農政経済学分野と経済学部や法学部開講科目などである。この例に見られるように、本来同一の分類でもおかしくない学問・専門分野が複数の学部に分属している場合は、他学部に属する科目を積極的に活用することによって幅の広さと専門性の深さの獲得が達成されうる。また、「農政経済学」という、旧来の学部分類からみれば学際的・複合的な専門分野においては、他学部履修を用いることにより、「農学」「政治」「経済学」の側面から専門性を深める試みがなされている。

学生の学習データから九州大学での他学部履修を全般的に見るならば、確かに、他学部履修の実態はの教職資格取得のケースが大半である。そのため、一見すれば総合選択履修方式を用いた他学部履修は、厳密な意味で学生の教養性を高めたり、幅広い関心に基づく科目選択を行うことに貢献しているものとは見えないかもしれない。(しかし、これを学生が他学部履修を望んでいないから、と見切ることは必ずしも出来ない。なぜ活発な他学部履修が行われなかったか考えうる要因について次節で述べる)。先にあげた通り、特定の分野においては、学問的な専門性を深めるうえでもこの制度が有効に活用されていることがわかるため、その点からも他学部履修については検討される必要がある。

大学においては、提供される教育内容の分類は、各大学である程度恣意的になされる側面がある。例えば心理学ならば、九州大学の場合は文学部と教育学部に分属しているが、心理学部・学科という形で、同一組織で提供する大学も存在する。つまり、教育内容を組織単位で完全に分離した形で置くというのは、大学毎での恣意性に縛られてしまうという点が問題といえる。大学を学問知識獲得の場とした場合には、明らかに損失の側面が大きい。その意味でも、今後、学生の他学部履修に関しては、教育内容を提供する側の問題として位置づけ直し、さらなる検討を進める必要があるだろう。

5. 今後の課題

最後に、他学部履修が促進されるための課題を提示していきたい。

前節で述べたように、学生の学習履歴を個別的に検討してみると、学生にとって現行の他学部履修は教養の幅を広げたりする目的ではあまり用いられていない。むしろ彼らは自らの専門性を高めたり、資格の修得を第一の基準として他学部履修を行っている。しかしこれは学生の志向性が専門志向である、とは必ずしもいえない。学生は、専門志向的な科目選択を行うような環境に絶えずおかれているためである。特に問題となるのは、教育に関する情報が学部ごとで分属し、外部からのアクセスが困難となっていることである。

代表的なものに、履修に必要な関係文書の存在がある。九州大学では全学教育科目を除いて、シラバスや履修の手引きは各学部ごとに作成される。これらは基本的に所属学部の学生にしか配布されず、他学部の学生が個人的に情報を得ようと思った場合、図書館や学務部、学部事務などに行き、情報を収集するしかない。仮に全学部のシラバスや手引きを収集できたとしても、ファイルボックス数個分になってしまい、日々持ち歩いて検討するにはむいていない。また、web上でもシラバスの開示がなされていないため、情報へのアクセスは時間的および空間的な制限の中で行わざるを得

ない。(つまり日中、各部署に行って情報収集するしかない。)

このように、教育知識に関する情報が分属していること、また、所属学部以外での教育活動に関する情報へのアクセスが困難であることが、学生の科目選択の可能性と、関心の志向性を制限している。

そしてまた、学部間でのカリキュラム構造の差異も知識を受け取る側である学生からすれば問題となる。各学部のカリキュラム及び成績関連文書に示される科目区分を一覧にしたのが表11、表12である。これを見ると、カリキュラムの構造化が学部間によって大きく異なっていることがわかる。

専門科目を「学部開講科目」とだけ示す学部(教育学部/法学部/経済学部経済経営学科/薬学部/工学部)もあれば、科目区分の中に詳細な分類を設けて一覧に明記する構造度の高い学部もあるのがみてとれる⁴。このカリキュラムの構造化に見られる差異は、カリキュラムが学部・学科単位で閉じたシステムになっていることを示している⁵。

このカリキュラムの構造化の度合いの違いは、学生が他学部のカリキュラムにアクセスするうえで大きな困難となると考えられる。各学部のカリキュラム構造が異なっているため、ある科目が、その学部カリキュラムのどの段階に位置付き、どの程度重要な存在としてあるのか文書上から理解するのは極めて難しい。学生が他学部履修を行うにしても、その科目の専門性などを選択の視野に入れようとするならばまず、該当学部の履修の手引きを丹念に読んだうえでシラバスを検討する、というように極めて膨大な手間がかかってしまう。実際にこれを改善する方法としては、選択可能もしくは積極的に履修させたい科目についての提示がなされている。他学部履修が比較的盛んな経済学部では、「履修の手引き」の中に選択可能な他学部科目一覧があげられている。カリキュラムの構造が異なる学部間での科目選択を認めようとするならば、こうした学習者の側に立った配慮が必要となってくる。

これまで述べてきたことから、仮に他学部履修をより促進しようとするならば、さらに次のようなアイデアが考えられるだろう。

まず第一に、各学部で提供される科目情報を一括して扱う必要がある。具体的には、各学部で提供される全科目の教育内容を示した全学共通の冊子を作成したり、それら科目の情報を web 上に一元的に収集する試みである。全学で提供される知識内容が一覧できる冊子があれば、それは大学における知識資源の在処と構成を明示化することにつながり、学生だけではなく、教員間の交流を深めるうえでも役立つ機会が多いと考えられる。また、現行の分属スタイルの冊子体では物理的に膨大になってしまうシラバスなども、web 上ならば情報の分類・検索などにおいてアクセスをたやすくすることは可能である。できれば、電子シラバスとしての形式を大学内で統一し、学部を越えて一括で扱うことが望ましい。

第二に、カリキュラムの基本構造を学内で統一化することである。各学部のカリキュラムは、伝統を経て形成されてきたものであるため、その伝統を必ずしも無視するわけにはいかないかもしれないが、各学部で知識獲得に関する独自の段階設定が行われていることは、一方で外部からのアク

⁴ カリキュラム関係文書上では構造度が低く見える学部でも、実際の運用は異なる可能性があるため、今後各学部についての具体的な運用状況の検討が必要と思われる。

⁵ 一方で、全学共通である全学教育科目群の分類法はどの学部もほとんど変わらない。

セスを困難にする側面がある。カリキュラム構造を学部単位で構成することは、学問状況に見合った綿密な教育体制がとれるメリットもあるが、そのメリットは学部内部においてのみ強力に働き、外部に対しては阻害要因となってしまう側面は決して見逃せない。カリキュラムの基本構造を全学的に共通化し（例：専門教育における科目レベルを数段階に分ける）、カリキュラムにおける各科目の位置づけが明示化されるようにすれば、内外共に知識資源へのアクセスという点でメリットが見いだせるだろう。

以上、他学部履修についての私案を述べさせていただいた。お聞き流しいただければ幸いである。

本稿では、学生の履修データを分析することによって九州大学における他学部履修の実状について検討してきた。知識社会といわれる現代社会では、様々に溢れる知識の中から、さらなる新しい知識、新しい価値を創造することが大学の役割としてますます求められるようになってきている。九州大学では、21世紀プログラムの実施や、総合選択履修方式の設置によって、学内の知識資源を余す所なく利用できる格好の体制が整っている。これらの制度を、学問及び社会の発展のために活用できるよう望むものである。

（本稿の執筆にあたっては、学務部教務課の田代正治氏に多大なるご協力をいただいた。ここに改めて感謝の意を述べさせていただきたい。）

表11 各学部・学科の科目区分一覧表（文系学部）

学部	文 学 部				教 育 学 部	法 学 部	経 済 学 部	
学科	人 文 学 科						経済・経営学科	経済工学科
コース	文 学	哲 学	歴 史	人 間			国際ビジネス	
	(国語学・国文学)	(哲学・哲学史)	(日本史学)	(言語学・応用言語学)			現代経済システム	
	(中国文学)	(倫理学)	(東洋史学)	(地理学)				
	(英語学・英文学)	(インド哲学史)	(朝鮮史学)	(心理学)				
	(独文学)	(中国哲学史)	(考古学)	(比較宗教学)				
	(仏文学)	(美学・美術史)	(西洋史学)	(社会学・地域福祉社会学)				
			(イスラム文明学)					
コア教養	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目
	コア教養・科学	コア教養・科学	コア教養・科学	コア教養・科学				
個別教養	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目
外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語
	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語
					言語文化科目Ⅱ			
					外国語コミュニケーション			
健スポ	健スポ科学	健スポ科学	健スポ科学	健スポ科学	健スポ科学Ⅰ	健スポ科学Ⅰ	健スポ科学Ⅰ	健スポ科学Ⅰ
					健スポ科学Ⅱ	健スポ科学Ⅱ	健スポ科学Ⅱ	健スポ科学Ⅱ
基礎科学							基礎科学科目Ⅰ	基礎科学Ⅰ必修
								基礎科学教育科目Ⅱ
情報処理	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ
その他全学	その他の全学共通	その他の全学共通	その他の全学共通	その他の全学共通				
専門科目	低年次専攻教育	低年次専攻教育	低年次専攻教育	低年次専攻教育	教育学部開講科目	法学部開講科目	経済学部開講科目	低年次専攻教育
	講義	講義	講義	専門科目				基本科目
	演習	演習	演習	古典語及び外国語				自由選択必修科目
	古典語及び外国語	古典語及び外国語	実習	地理学概論(地理学)				自由選択科目・特講
	コース共通科目	コース共通科目	演習・講読以外(考古学)	実習(地理学)				その他の自由選択科目
			史学概論コース共通	社会調査法講義(社会学・地域福祉社会学)				特別科目
			古典語及び外国語	社会・地域福祉講義(社会学・地域福祉社会学)				低年次・基本・自必余剰
			コース共通科目	社会・地域福祉演習(社会学・地域福祉社会学)				
				社会学概論(社会学・地域福祉社会学)				
				講義(心理学)				
				演習(心理学)				
				実験(心理学)				
				比較宗教学概論(比較宗教学)				
				etc				
その他	教職に関する科目	教職に関する科目	教職に関する科目	教職に関する科目	他学部開講科目	他学部開講科目	他学部開講科目	その他の科目
	博物館に関する科目	博物館に関する科目	博物館に関する科目	博物館に関する科目				
	選択科目	選択科目	選択科目	選択科目				

注：各学部の履修の手引き等より作成。

表12 各学部・学科の科目区分一覧（理系学部）

学部	理 学 部					薬 学 部	工 学 部					農 学 部
学 科	物理学科	化学科	地球惑星科学科	数学科	生物学科		建築学科	電気情報工学科	物質化学工学科	地球環境工学科	エネルギー科学科	生物資源環境学科
コ ー ス	物理学コース					生命薬学コース		A - F 課程	応用化学(機能)	資源工学コース		生物資源生産科学コース
	情報理学コース								応用化学(分子)	建設都市工学コース		応用生物科学コース
									材料化学工学	船舶海洋システム工学コース		地球森林科学コース
									化学プロセス・生命工学			動物生産科学コース
コア教養	文化・文芸・歴史	文化・文芸・歴史	文化・文芸・歴史	文化・文芸・歴史	文化・文芸・歴史	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目	コア教養科目
	異文化・政治・経済	異文化・政治・経済	異文化・政治・経済	異文化・政治・経済	異文化・政治・経済							
	地球・数理・物質	地球・数理・物質	地球・数理・物質	地球・数理・物質	地球・数理・物質							
個別教養	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目	個別教養科目
	個別教養科目・高年次	個別教養科目・高年次	個別教養科目・高年次	個別教養科目・高年次	個別教養科目・高年次						個別教養科目・高年次	
外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語	第1外国語
	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語	第2外国語
健スボ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ	健スボ科学Ⅰ
	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ	健スボ科学Ⅱ
基礎科学	基礎科学Ⅰ必修	基礎科学Ⅰ必修	基礎科学Ⅰ必修	基礎科学Ⅰ必修	基礎科学Ⅰ必修	基礎科学科目Ⅰ	基礎科学科目Ⅰ	基礎科学科目Ⅰ	基礎科学科目Ⅰ	基礎科学科目Ⅰ	基礎科学科目Ⅰ	基礎科学科目Ⅰ
	その他の基礎科学Ⅰ	基礎科学Ⅰ選択必修	その他の基礎科学Ⅰ	その他の基礎科学Ⅰ	その他の基礎科学Ⅰ							
	基礎科学教育科目Ⅱ			基礎科学教育科目Ⅱ	基礎科学教育科目Ⅱ							
情報処理	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ	情報処理科目Ⅰ
	情報処理科目Ⅱ											
その他全学	その他の全学共通教育科目											
専門科目	必修科目	必修科目	必修科目	必修科目	必修科目	薬学部開講科目	工学部開講科目	工学部開講科目	工学部開講科目	工学部開講科目	工学部開講科目	工学部開講科目
	選択必修科目	選択科目A	選択必修科目A	選択科目	選択必修科目A							コース必修・選択必修
	選択科目	選択科目B	選択必修科目B	選択科目・数理科学特	選択必修科目B							
	他コース・他学科科目	他学科科目	化学科科目		学科選択科目							
					他学科科目							
その他	他学部科目	他学部科目	他学部科目	他学部科目	他学部科目							
		教職及び学芸員	教職及び学芸員	教職及び学芸員	教職及び学芸員							

注：各学部の履修の手引き等より作成。